

主编 汤重南

日俄战争史料

17

綫装書局

主编 汤重南

(第十七册)

日 俄 战 争 史 料

綫装書局

第十七册

日露交戰紀念錄(二)上卷

内田安藏 吉田文彦 著

明治三十八年六月

.....一

上卷

日露交戰紀念錄（二）

内田安藏 吉田文彦 著

明治三十八年六月

◎我三軍遼陽攻撃の活動

遼陽攻撃として前進せんとする我が三軍の活動せるの状況は以下順次記述する如きも先づ大體を知るに便ならしむる爲め滿洲軍總司令官の報告に徴し八月下旬鞍山站湯河沿附近の攻撃開始より記せんに我が右翼軍は八月二十四日より運動を開始し二十五日夜より二十七日に互り激戦の後敵を撃退して紅沙嶺孫家寨高峰寺に互る線を占領して尙ほ追撃を續行し二十九日英守堡、石咀子、响山子の線に達し三十日夜より三十一日に互り軍は其主力を鎌刀灣に於て太子河右岸に移し其の一部を太子河左岸に残置し中央軍と連繫して動作せしめたり軍の主力は九月一日より黒英臺西方附近にある敵に向ひ攻撃を開始せしが敵の抵抗頑強にして且つ前日より兵力を増加せしを以て攻撃容易に進捗せず然れども四日間に互る激戦の後ち九月四日正午過ぎ遂に敵の陣地を略取せり九月四日太子河左岸に在りし同軍の一部を更らに太子河右岸官屯に移したり云々と以上の報告に依り太子河左岸の事は既に全く定まりたれども右岸の戦況如何は公報未だ發表に至らず然れども前金以來到着の敵方の公報は却つて彼れより我黒木軍の行動たる前進を證したり黒木軍は三日午前九時までは其進路頗る頑強なる妨害を被りつゝあるものゝ如くな

りしがクロバトキンの三日發の報告には露軍主力が煙臺停車場より煙臺炭坑までの鐵道支線南方に陣地を占領したるを既に日本軍が其前面の黍畑の中より瞰射せりといへり此の敏快の行動をなしたるものは多くは黒木軍ならんと思はる聊か我公報とは符合せざるが如くなれど公報中に謂ふ所の黒木軍の右縦隊がサンツアゴウに一部を留めて主力を以て西進したりといふものが早くも敵主力に追及し居るものとして見るを得べし又クロバトキン公報のオルロツプ支隊の大損害退却は黒木軍前面のものなるに相違なけれど其退却がいづれよりいづくに向ひたるや明かならず但黒木軍が二日に於て此枝隊に大痛撃を與へたることだけは明かなり然るに遼陽に残れる敵兵は三日に於て太子河右岸に北渡しつゝありといへば此後退の敵兵は如何に成りしか甚だ疑はし然りといへども黒木軍の大成功を太子河以北に建て居るならんとの希望は十分ならんか亦た中央及び左翼軍は二十六日より運動を開始し敵を壓迫して二十七日下石橋子、候家屯、蘇馬臺の線に達す然るに此日下房身、鞍山店の防禦陣地に據れる強大なる敵は遼遼方面に退却を始めたや依つて中央左翼の兩軍は直ちに追撃に轉じ敵の一部隊を驅逐しつゝ二十九日に至り中央軍は潘家爐沙河の線左翼軍は沙河漁家臺の線に達す敵はヤエチ北方高地より早飯屯南方高地新立屯東西の兩高地を経て首山堡西方高地に互に堅固に陣地を構成しあり故に中央軍は更に之

れが攻撃に着手せり此の状況に於て左翼軍は首山堡附近の敵を攻撃し以て中央軍の戦況に應じ協力して敵を攻撃せり三十日中央軍の右翼は右翼軍の左翼たる一部と共にヤエチ北方高地より早飯屯南方高地に互り占領せる敵に對して攻撃を開始せしも敵は遼陽方向より強大なる増援を得中央軍の右翼は其の略取したる位置を一時支持するの已むを得ざるに陥りたり此の戦況に於て本官は左翼軍に命じ一意迅速に首山堡附近の敵を撃破するの任務を與へたり同日中央軍の左翼及び左翼軍も亦首山堡附近の敵に對して攻撃を開始せしに敵は頑強に抵抗し屢々逆襲を試み攻撃甚だ困難なりき然れども兩方面の敵は我軍の連日連夜の猛烈なる攻撃に堪へず三十一日夜半に至り遂に我軍の撃退する所となり遼陽方向に退却し我兩軍は直ちに追撃に移りたりしも敵は再度遼陽城の南端及び西端を圍繞する堅固の堡壘線及び木廠東北方高地に據り頑強に抵抗し我兩軍は九月一日より三日の夜に至るまで遼陽に對する攻撃を繼續し以て遂に敵壘線を奪取し四日朝全く遼陽を占領せり敵は三十日に至る迄汽車にて増加兵を遼陽に輸送したるの兆候あり而して我に對せし敵の兵力は未だ詳らかならずと雖も總數少くも約十二師團なるべし今や敵の大部は未だ煙臺以北に退却せざるものゝ如く其一部は迎水寺附近に停止しあり停車場附近の倉庫及び鐵道橋並は太子河の架橋は敵之を燒夷せり我左翼軍中央軍は太子河左岸に停止し一部隊

を以て木廠北方高地及び鐵道橋附近を占領する筈なり且つ二十五日以來私の損害に就ては未だ正確なる報告に接せずと雖も多大の數に達すべし敵の損害に就ても未だ詳らかならず敵が全力を擧げて半永久的に構築せし數段の防禦線に對し十日間に亙る攻撃を以て遂に目的を達し多大の犠牲あるにも拘はらず士氣頗る旺盛なり云々と以上は我が總司令官が九月六日迄の情況を報告し來りたるものなり敵は既に其本據を奪取せられ居るにも拘はらず尙頑然として其附近を去らざるを見ても此地を失ふことの如何に渠等が爲めに苦痛なるかを知るに足らむ

◎遼陽日露未曾有の大野戰

我が征露の偉舉は抑も建國以來未曾有の大業なり既に此大業に着手したる以上は固より苟もするの念あるべからず奮勵踴躍益々其大目的に向つて勇ならざる可らざることを敢て言ふ迄もなし而して遼陽全捷の結果は戰局の第一段落は確に此に成りたるなり軍事當局者の成算中なる第一期作戰計畫も此上旅順の孤壘を拔けば或は其終結を告ぐる事ならん然りと雖もこは第一段落のみ第一期作戰計畫のみ而して第一の次に第二あるは固より國民の始より期する所にして尙は是先彼れ頑惡なる侵略的強國をしていよく盡く其の敗狀の回復すべからざるを自信せしめ

以て我膺懲の最終の目的を達し以つて東洋未來の和局を確に發開し得るに至るまでには日本國民は猶ほ戦はざる可からず今度の遼陽の戰報に於て敵帥が其本國に奏したる所を見るに未だ中々絶望し居らざるものゝ如く既に彼は退却の已むを得ざるに至りたることを示し且つ其戰略の一方より崩れ來りたるを掩ふ能はずと用兵上の無能を披露しながらそれにては猶ほ戰場の高叅が日本軍を助けたることを説き自己の敗因を自己に歸すること敢てせず且つ今後の成功の希望を抱くが如き口氣を示せり然りと雖も他の公平なる列國の新聞紙も殊に我同盟國の新聞紙も皆筆を揃へて日本の勝の十分なるを認めて記せしにわらずや左れど我は之に甘ぜず必ずや滿洲軍は敗北後の敵の殘兵をして近く煙臺に集中せしむるが如きこと無かる可けれど奉天に於けるクロバトキンの再舉動作は固より豫期する所にあらざるも戰線に在る我動作は寸毫の稽緩を容れざることに信ず今茲に大捷の真相を記するに先ち一言を費さる可らず而して滿目皆旅順の方面に集中して遼陽方面のこと多く注意せられざりし時に於て活氣ある一大快報は突如として飛來せり此報たる實に八月二十七日夜東京に達せしなり曰く我第一軍の支隊は遼陽奉天間の連絡線を衝き之を占據したり爲めに遼陽を中心として附近十餘哩内に在る露軍は全く奉天との連絡を絶たれ孤立したりと此報に依りて我遼陽攻撃軍の運動が如何に進捗しつゝあるかを知る可く

又此報に依て萬目は忽ち遼陽方面に集中せられたり遼陽攻撃は果して始せり其大捷の快報は續々として到れり而して劈頭第一の快報は先三軍並進の状況より公けにせられたるを見る曰く第一軍は八月二十五日夜より同二十七日に互る激戦の結果塞馬嶺より大甸子を経て大西溝に互る峻嶺上に堅固に構成せる敵の陣地を奪取し全く湯河右岸の地區を占領し敵を遼陽方向に壓迫せり又遼陽海城街道に沿ひ前進したる諸軍は途中若干の敵を驅逐し二十七日朝上石橋子より候家屯を絶て蘇馬臺以西に互る線に達し鞍山站より騰駑堡に互り堅固に構成せられたる陣地に在る敵の攻撃に着手せしが敵は抵抗をなすことなく該陣地を撤し北方に退却するの徴候を認めたるを以て軍は直ちに之れに追躡して前進せり翌二十八日遼陽海城街道以東の地區を追撃せし軍の數縱隊は午前十時調軍臺、大石頭、八卦溝に達して敵に追及し遼陽海城街道を退却中なる敵の退路に迫り立山屯及び潘家爐附近に於て大に混雜しある敵の大部隊に對し猛烈なる追撃射撃を加へたり之れが爲め敵は一層混亂して沙河以北に退却せり同時遼陽海城街道以西の地區を前進せし軍の一縱隊及び砲兵團も八卦溝及び陶官屯附近に來着し恰もよし八家子西北の地區を退却中なる敵の大縱隊に追及し猛烈なる追撃を以て敵を沙河以北に撃攘せり此の如くして遼陽海城街道方面に於ける諸軍は敵を遼陽方面に壓迫せり此の方面に於ける鹵獲品は野砲八門彈藥車

四輛輜重車數十輛なり以て敵の退却が如何に混亂せしかを知るに足るべし

●我右翼軍長驅活動の詳況

遼陽攻撃の急先鋒たる我が右翼軍の行動こそ特に注目すべきものなれ八月二十五日より同二十八日に亘る同軍の戦闘報告に曰く軍に對せし敵は紅沙嶺より寒坡嶺及び大甸子北方高地線を経て大西溝北方高地線に亙り數日前より準備したる嶺山上の強固なる陣地に據り極めて堅固に之を占領せり之れに反して我は良好の攻撃陣地を有せず殊に野砲の如きは本道附近の外之れを用ふるの陣地を缺けり其の戰況左の如し左縦隊は二十三日より運動を起し少數の敵を驅逐しつゝ二十五日二道河北方高地よりベイリンツイ南方高地に亙る線を占め以て翌日攻撃を準備し中央及び右縦隊は二十五日午後より準備運動に就けり二十五日夜半より中央縦隊は歩兵を擧げて敵陣の中央たる弓張嶺及び其附近の嶺山に向ひ銃鎗突撃を行ひしに其攻撃は大に功を奏し同地附近の敵の本陣地は全く我有に歸せり然れども敵は近く第二第三線の高地脈に兵力を増發して勇悍に防戦し激烈なる小銃戰と爲り二十六日正午に至るも毫も其度を減せず加之大安平附近の敵砲は盛んに我れを射撃し其歩兵は屢々恢復攻撃に出でんとするの形勢を示せり然るに我は

地形上有利の砲兵陣地を有せず爲に同縦隊の情況は一時危険に陥らんとしたるも遂によく之れを支持し以て敵を湯河の谷地に壓迫するを得たり右縦隊は拂曉前より紅沙嶺七盤嶺（弓張嶺の北方）及び其の中間の地點に向つて夜襲を行ひ其左翼は敵陣を奪取するを得たるも紅沙嶺は遂に全く之れを占領するを得ず拂曉と共に激烈なる銃砲戦となり連續黄昏に及ぶ左縦隊も又拂曉より歩兵の首力を以て大西溝北方の高地に向ひ攻撃前進に移り其砲兵は大甸子北方及び高峯寺西北方高地に於ける殆んど半永久的の工事内に在る優勢なる敵砲に對し決戦を求め午後二時より四時に互り砲戦最も熾盛を極め此間敵砲は時々沈黙することありしと雖も遂に之を撲滅するを得ず又敵の歩兵は兵力を増加して我左翼に壓迫し來り漸次危険を感じずるに至れり是を以て同縦隊の攻撃前進大に滯滞するに至る要するに軍は敵陣地の中央を突破して敵を兩斷し得たりと雖も兩翼は夜に入るも尙ほ之を攻略するを得ず加之二十六日午後四時前より起りたる迅雷大雨の爲に各山頂は遽に煙霧を以て蔽はれ遂に攻撃の目的を遂行するに至らずして夜を徹するに至れり此夜紅沙嶺及び大西溝方面に於て敵の企圖せし數回の逆襲は常に無効に歸し我は此機に乗じ紅沙嶺を占領し同嶺に在て最も威力を逞しふせし敵砲八門を奪取せり二十七日雲霧を冒して各縦隊は再び攻撃前進に移りたるも敵の一部は依然頑強に抵抗し黄昏に至り漸く紅沙嶺よ

孫家塞南方高地を経て大西溝北方高地に亙る線を占領するを得たり此戰鬪に於て最も壯烈を極めしは紅沙嶺附近及び弓張嶺附近の夜戰にして敵は月明に依りて我兵の前進を察知し激烈なる射撃をなすのみならず岩石を山頂より墜落し我兵の之に觸れて死傷せしもの甚だ少なからず然れども我が兵は頑として射撃を開始せず堅忍不拔以て急峻なる山岳を攀登し敵陣地に突撃せり從て損害の光景は最も悲慘を極めたり但し夜襲の際に於ける損害は比較的多大ならず又左縱隊方面の敵は頗る優勢なりしを以て同縱隊は苦戰最も勉めたり敵の兵力は歩兵六十五大隊（狙撃第二軍團及び戰列第十軍團の全部并に第十七軍團の半部）砲百二十門にして其大部は遼陽の方向に退却し一部は近く軍の前方に停止しあり二十六、二十七兩日の戰鬪に於て我軍の死傷者將校以下約二千にして鹵獲は砲八門彈藥其他多數なり敵の死傷は未詳なるも多大なるべしと信ず云々とあり以て其戰鬪の如何に激烈なりしかを知るべし更に續報に曰く右翼軍は八月二十七日湯河右岸の地區を占領したる後更に攻撃を續行し其右縱隊及び中央縱隊は頑強なる敵の抵抗を撃破して紅沙嶺の全部及び孫家塞北方高地を占領し次で雙廟子及び石咀子に向ひ逐次敵の抵抗を撃破しつゝ前進し同日々より二十九日朝までの間に雙廟子東方高地の敵を撃退して該地を占領せり然れども左縱隊は响山子東南方高地にある敵の頑強なる抵抗のため該高地以北の線に

前進する能はざりし寒坡嶺附近に於て我軍のため撃退せられたる約二師團の敵は二十九日小屯子北方にある軍橋を経て太子河右岸に退却しつゝあり軍は此前夜より二十九日朝に互り連續前進を勉め右縦隊及び中央縦隊は雙廟子より石門子西方に互る線に進出するを得たり左縦隊は二十九日朝に至り大石門嶺及び响山子附近の敵を撃退しヤウチ及び孟家房に向ひ前進せしも該地附近の敵は二十九日に至り著るしく其兵力を増加したるため攻陥極めて困難なりき

● 中央軍及び左翼軍の活動

遼陽街道を前進したる諸軍は二十八日敵を猛烈に追撃したる後二十九日尙ほ前進を續行し其中中央軍を以て來家堡より黒牛庄に互る線を左翼軍を以て黒牛庄以西漁家臺に互る線を占領し別に中央軍の一縦隊は遠く軍の左側ウエイジャゴウに前進して右翼軍左縦隊と連繫し該方面の敵を撃攘し孟家房方向に前進せり遼陽海城街道方面の敵は首山堡南方高地より新立屯高地を経て方家屯東方高地に互る線を占領しあるものゝ如く此各高地には堅固なる防禦工事ありて敵の大兵團堅固に之を守備せり此の如き情況に於て各軍は其占領せる陣地に於て夜を徹せり翌三十日拂曉各軍は各々其前面に在る敵に向つて攻撃前進を起したる結果敵は其退却を遂行し能はざる狀

況に陥りたるもの、如く依然孟家房北方高地より早飯屯南方、方家屯東方及び新立屯西方にあり、高地首山堡西方高地に互る線を占領しあり之に對し各軍は全力を擧げて之れを攻撃し各方面とも此に激烈なる戦闘を惹起せり孟家房及び早飯屯方面の右翼軍の左縦隊は三十日拂曉より孟家房及びバユチ附近の敵に向ひ更に攻撃を繼續せしも敵は午後一時頃に至り益々其兵力を増加し午後三時頃に至るも敵の陣地を奪取するに至らざりし中央軍より派遣せし一縦隊は早飯屯南方高地に向ひ午前六時頃より砲撃を開始し最初は攻撃大に進捗せしが午前十時より敵の大縦隊遼陽方面より前進し來り該縦隊に向つて恢復攻撃を行ひ午後に至り敵は益々其兵力を増加して少くも二師團以上となり其砲数は五六十門に達せり之れがため其の右翼は一時危殆に陥りしも勇戦奮闘の後午後三時頃に至り右翼軍左縦隊と連繫するを得て敵を早飯屯南方高地より撃攘してウイジャゴウ附近に互る線を奪取するを得たり然れども敵は尙ほ頑強に攻勢を取り午後五時に至るも交戦酬はなり中央軍の主力は左翼軍の一部と共に三十日朝來方家屯東方高地より新立屯西方高地に互り占據せる敵に向ひバワより其西方高地を経てシャオヤンズイ附近の高地に互る間に展開して攻撃せしが此方面の敵は堅固なる陣地に據り頗る頑強に抵抗せり之れに對し軍は盛に砲撃を行ひ攻撃準備をなしつゝあるも午後五時までは未だ敵陣に突入するを得ず

りし左翼軍の主力は三十日拂曉より攻撃運動を開始し午前十一時頃に至りマエトレウより大越家臺に亙る線を占領し首山堡西方高地に在る敵に向ひ攻撃を開始せり此方面の敵は其右翼をグウツヤツイ西方部落に托し盛んに機關砲を以て射撃し軍は其全力を擧げて之れを攻撃せしも更に攻撃の進捗を見るに至らずして午後四時半となれり此に於て軍は其の豫備たる一兵團を其左翼に増加せり是より先き午後二時頃遠く軍の左側を前進したる我縦隊の砲兵は王二屯附近に達し首山堡附近の敵の背後を射撃せり各方面に於ける敵の全兵力は詳らかならざるも漸次増加して今や其砲數は首山堡高地以來のみにて約百門に達すべく且つ各方面の敵の陣地は堅固に構成せられ其副防禦には容易に我が歩兵の近接を許さざりし右の如き狀況にあつて午後七時過に至るも尙攻撃を繼續せり夜に入りて敵は首山堡附近より我が左翼軍に向つて夜襲をなしたるも我軍の爲に撃退せられ之に次でシャオヤンズイ北方にありし左翼軍の一部は首山堡南方高地の敵に向つて夜襲を行ひ此の如くして彼我激烈の戦闘を交へつゝ三十一日朝に至り尙ほ激戦は繼續せられつゝ午後に至りたるも未だ戦機的發展を見るに至らず又た孟家房早飯屯方面に於ても我軍は頗ぶる優勢なる敵に對して奮闘其の位置を保守しつゝあり以上の狀況を以て午後零時二十分に至り我左翼軍の一部は新立屯西方高地を占領するを得たり各軍に對する敵の兵力は合計約